



日本癌病態治療研究会を 主催するにあたって

広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 峠 哲哉

この度、第12回日本癌病態治療研究会を広島において開催させていただくことになり、大変光栄に存じます。謹んで、皆様のご来広をお願いするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

わが国においては、数多く学会・研究会がひしめく中にあって、欧米に見られるような時間的、空間的にゆとりある、そして心洗われる環境で、ゆったりと心豊かに学問する研究会は見当たりません。この観点から、癌治療の場にあつて基礎と臨床の掛け橋とも言える本研究会にもっとも相応しい形態を求めてみました。まず会場を、日本三景のひとつ安芸の宮島の対岸に位置しますリゾートホテルに設定させていただきました。また、企画におきましては、研究発表、情報交換を午前集中し、午後は自由に、悠々と癌治療を語り、そして夕刻からは瀬戸の夕暮れを背景に一堂に会して旧交を温める懇親の場を設けました。

シンポジウムは2題準備させていただきました。「癌病態からみた治療戦略：分子標的治療と治療個別化」では、アラバマ大学より Robert B. Diasio 先生にご参加いただき、癌病態の分子生物学的理解とテーラード・メディスンについてご討論いただきます。また、「生存からみた胃癌治療：日米における新しい化学療法」ではノースウェスタン大学より Al B. Benson III 先生にご来日いただき、臨床試験を中心にエビデンスに基づくご討論をいただきます。ともに最先端の癌薬物療法の現状を学ぶことができると期待しております。一般演題はすべてポスターとし、情報交換なり、交友なり、思い思いに過ごしていただくことを提案させていただきました。広い基礎と臨床の交流の場としていただきましたら幸いです。

先生方の長い人生において、ともにときを同じくして学問に勤しみ、厳しさの中にも楽しく議論したと、そんな記憶に残る研究会を演出させていただけると自負いたしております。会場が市内よりいささか離れることになりましたが、研究会の主旨をご理解いただき、学問の道の散策とお許しください。どうぞ気の合う仲間と友好を温め、是非、思い出の一ページに広島を加えていただけたら、主催者としてこのうえない幸せに存じます。

7月初旬の広島は、安芸の宮島はもちろん、錦帯橋など見所も多く、また瀬戸の小鱼をはじめ海の幸山の幸も豊富でございます。皆様を心からお待ち申し上げ、お誘いあつてのご来広をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。